

お手軽セルフブランディング

# “自分名刺” を作ろう!

名刺といえば会社から支給されるもの。そんな“常識”が変わりつつある——。会社の名刺以外に、自分で作成した名刺を持つ人が増えている。“自分名刺”は職場以外の人と交流を深め、人生をさらに充実させるきっかけになる。勉強会や朝食会に参加する時は、出会いを無駄にしないためにも、相手の印象に残る名刺を使いたい。さて、どう作ればいいのか。達人たちに伝授してもらった。

text by 高島三幸 + photographs by 北山宏一

## なぜ今

## “自分名刺”なのか？

自分名刺を持つと職場以外の人とつながりやすくなる。名刺を入り口に、SNSなどで交流を深めるのもいい。相手の印象に残る名刺が、あなたの世界を広げてくれる。

勉強会や朝食会などで名刺交換をする時に、職場の名刺ではなく、自分で作成した“自分名刺”を渡す人が増えている。自分名刺を持つビジネスパーソンのKさん（30代、男性）は、「勉強会で勤務先の名刺を渡しても話が広がらない。自分名刺なら、そこに記載した趣味や関心事をきっかけに初対面でも話が盛り上がる」と話す。

名刺を自己PRのツールに変える方法を教えている高木芳紀さんは、自分名刺が注目される背景を2つ挙げる。1つは職場以外にも人脈を深めたいと思う人が増えたこと。「終身雇用制が崩れ、給料も右肩上がりにならない今、肩書や役職を外した時に果たしてやっていけるのか、かなりの人が不安に思っているはず。職場以外の人と交流を深めることで、プライベート

の充実や自己成長のための情報収集はもちろん、新たなビジネスチャンスの発掘を期待する人も多い」（高木さん）。

高木芳紀さん  
Yoshinori Takagi

名刺の達人、つばめや事業企画担当  
1971年生まれ。アスクル正規取扱販売店つばめやの事業企画担当を務めながら、名刺アドバイザーとして全国各地で活動中。著書に「1秒で10倍稼ぐありえない名刺の作り方」

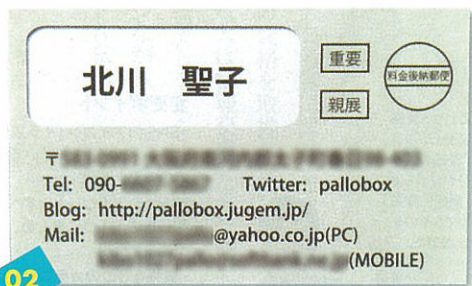
2つ目はSNSの普及。個人が手軽に情報を発信し、交流できるチャンネルが増え、人とつながりやすくなった。だが、そうしたチャンネルに人を導く術がない。そこで役立つのが自分名刺だ。「出会った人を、自身の活動を詳しく伝えるブログやSNSにつなげるツールが名刺。チラシは捨てられてしまうが名刺を捨てる人はあまりいない。だからこそ、相手の印象に残る名刺を作って活用しない手はない」。名刺は最小で最強の自己PRツール。それに気づいて

読者の

# “技あり”名刺13

会社の枠を越えて活動するビジネスパーソンは、どんな自分名刺を使っているのか。会話を生む仕掛けから人脈の広げ方まで、アソシエ読者の名刺の“技”を一挙公開。

## 素材やビジュアルで会話を生む

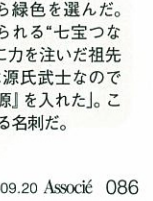
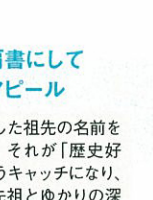
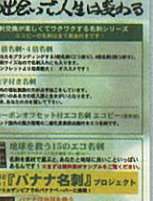
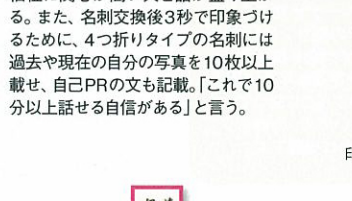
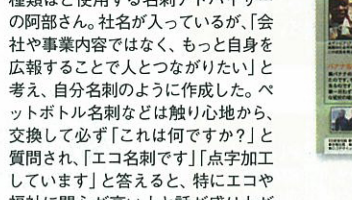
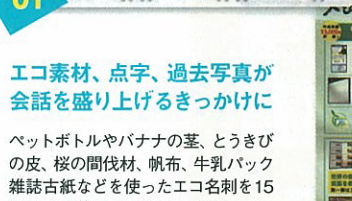
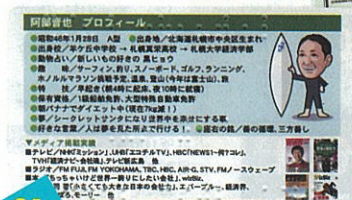


北川 聖子さん  
DTPデザイナー、20代

### 02 封筒型の名刺で自分のアート作品を紹介

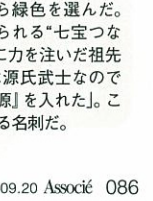
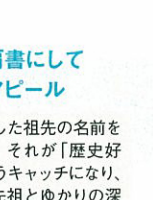
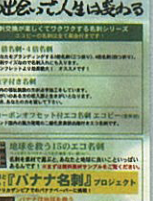
本業とは別にアーティストとしての顔も持つ北川さんはある時、人から「どんな作品を作っているのか?」と聞かれ、うまく説明できなかった。作品集をいつも持ち歩いているわけではない。「そうだ! 名刺に作品集を入れよう!」とひらめいて作ったのがこの封筒名刺だ。プライベートカードを入れる封筒を参考に、DTPソフトで展開図を作成。名刺サイズの封筒に2つ折りの小さな作品写

真を入れたところ、作品の説明がしやすくなり、受け取った人は驚きながら「かわいい!」と言ってくれた。「サプライズ」を人にプレゼントするのが好き。名刺交換が楽しくなるし、印象にも残りやすい。あまりに好評だったため、封筒名刺をビジネスにすることに。事業内容をビジュアルで伝えたり、クーポン券を入れるショッピングカードにも活用できる。http://pallobox.seesaa.net/



### 01 エコ素材、点字、過去写真が会話を盛り上げるきっかけに

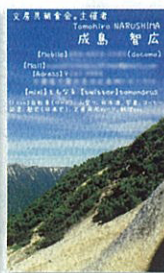
ペットボトルやバナナの茎、とうきびの皮、桜の間伐材、帆布、牛乳パック雑誌古紙などを使ったエコ名刺を15種類ほど使用する名刺アドバイザーの阿部さん。社名が入っているが、「会社や事業内容ではなく、もっと自身を広報することで人とつながりたい」と考え、自分名刺のように作成した。ペットボトル名刺などは触り心地から、交換して必ず「これは何ですか?」と質問され、「エコ名刺です!」と答え、「点字加工しています」と答え、特にエコや福祉に関心が高い人と話が盛り上がる。また、名刺交換後3秒で印象づけるために、4つ折りタイプの名刺には過去や現在の自分の写真を10枚以上載せ、自己PRの文も記載。「これで10分以上話せる自信がある」と言う。



### 03 趣味の写真を使って季節ごとに変える

2008年に参加した朝食会を機に自分名刺を作成。その後、文房具朝食会を主宰し、その肩書に加え、趣味の写真を使った「季節名刺」を作った。「あんず文字」というフリーの手書きフォントがアクセント。「飽き性なので、すぐ名刺を変えたい(笑)。久々に会った人でも「名刺が変わりまして」と渡せば、話さきっかけになる。「ど

この景色ですか?」「きれいですね」と声をかけてもらえるし、写真好きな人は特に反応するから同じ趣味の人が見つかってうれしい」。春名刺は東京・根津で撮影した「菜の花」、夏名刺は緑豊かな「燕岳」(長野県)、秋名刺は「豪徳寺の紅葉」(東京都世田谷区)、冬名刺は日光東照宮の雪景色。季節感溢れる名刺は、気持ち安らぐ。



成島 智広さん  
人材サービス業、30代

### 05 伊藤 宏樹 (Ito Hiroki) キャッチフレーズ「食を通して、笑顔と人の輪を広げる!」



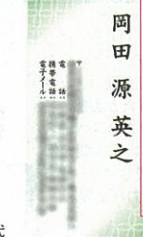
伊藤 宏樹さん  
システムエンジニア、20代



### 「スイーツ男子」+笑顔で女子との会話も盛り上がる

スイーツ好きな人とつながりたいという思いから、「スイーツ男子」という肩書を作り、名刺にはスイーツの画像を掲載した伊藤さん。女性に名刺を渡すと「おいそ〜」という返答が多い。名刺を手渡す時のポイントは笑顔。それを続けるうちに「笑顔を絶やさないスイーツ男子」という特徴から、初対面の方でも盛り上がりやすく、後日SNSでつながることが多くなった。

### 04 岡田 源英之 (Okada Genji) 清和源氏満政山田田重前守善政六男、淡本守常庶善紀初代



岡田 源英之さん  
サービス業、30代

### 祖先の名前を肩書にして「歴史好き」をアピール

10年以上かけて探した祖先の名前を肩書のように記載。それが「歴史好き」「先祖好き」というキャッチになり、必ず質問される。「先祖とゆかりの深い美濃の織部焼から緑色を選んだ。模様は茶道に用いられる「七宝つなぎ」を使い、文化面に力を注いだ祖先を表す。また祖先は源氏武士なので名字と名前の間に「源」を入れた」。こだわりが詰まっている名刺だ。